



住まい探し「11」がポイント」(II)
自立支援型ケアハウスの選択ポイント

連載の第一回で述べたように、費用面から見るとケアハウスが一番割安に生活できる住まいです。

今回は、そのケアハウスについてお話ししたいと思えます。図1は平成13年に当会員を対象に施設入居の意向調査をした時のものです。やはりケアハウスのニーズは高く、44%の人が住替え先として希望されています。現在でもセミナーや相談にケアハウスを希望される人が多いのは変わりません。

整備状況は平成17年7月現在で1678施設、定員65,565人。また、実施計画の3分の2程度(実施目標10万5千人)。しかし、目標数に至らないにもかかわらず整備が鈍化してきているのが図2を見ていただくと分かります。平成8年をピークにその後徐々に建設件数が減少傾向にあり、平成16年度は前年度の約半数強、平成17年度は現在のところ15施設程度です。なぜ、こんなに少ないのでしょうか。実は都市部では常に満室状況ですが、まとまった広さの土地がないことや、事務費補助など自治体負担が重いこともあって、おいそれとは整備できない事情もあるようです。一方地方や都市部のドーナツ圏にある施設では、空いている施設が多く見られます。これは、いろいろな要因が考えられますが、一

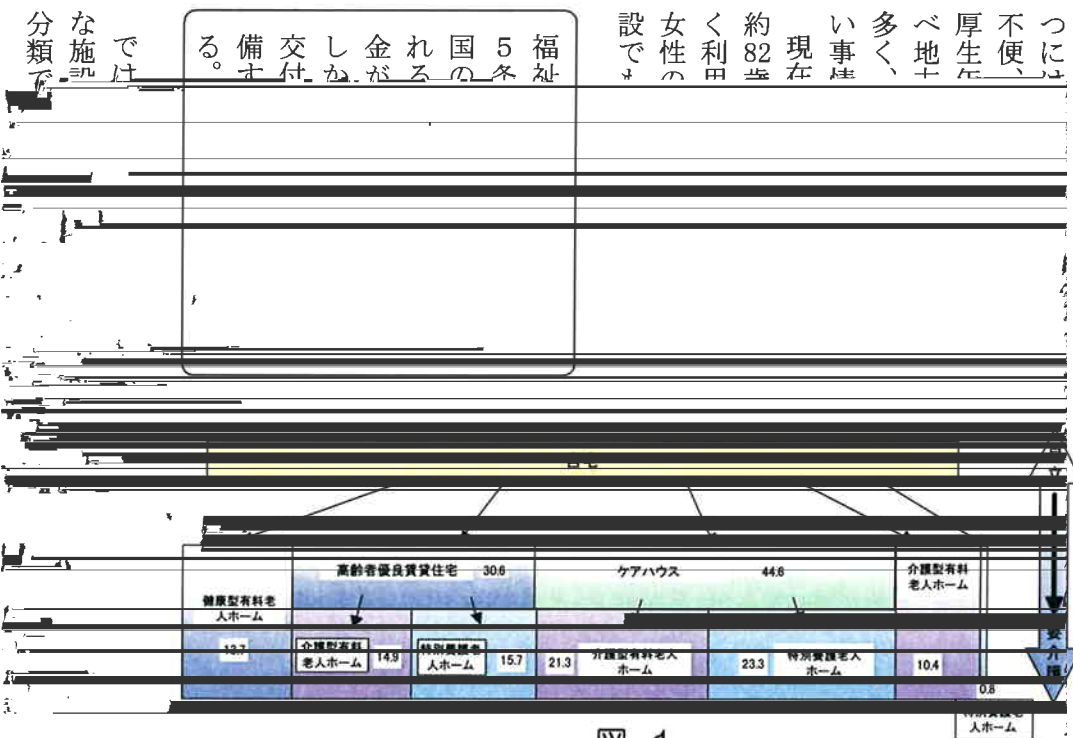


図-1